



TOHOKU GAKUIN
UNIVERSITY

東北学院大学

博物館年報

VOL.6
平成26年度(2014)

東北学院大学

博物館年報

平成26年度

2014

vol.6



発行 / 平成28年3月27日
編集 / 東北学院大学博物館
印刷 / 株式会社コーメディア
Tohoku Gakuin University Museum

東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1
TEL 022-264-6920 FAX 022-264-6917

Tohoku Gakuin University Museum 2014

表紙資料紹介

- 「竹二雀図」
- 作者 伊達綱宗
 - 年代 寛永17年(1640)～正徳元年(1711)
 - 寸法 縦87cm 横30.9cm (本紙部分)

本資料は、伊達綱宗の誕生寛永17年(1640)～死没正徳元年(1711)までに描かれた作品である。21歳の若さで隠居を強いられた綱宗は72歳で没するまでの50年間を品川の大井屋敷で過ごす間、様々な芸術に傾倒していき、特に絵については専門絵師にも引けを取らないとの評価を得る出来になっており、現在では仙台市博物館に所蔵されている「絹本着色靈昭女・牡丹・芙蓉図」や「花鳥図屏風」が著名な作品として挙げられる。本書画に描かれているのは竹と雀だが伊達家の家紋の一つ「竹に雀」があることから、おそらく家紋をモチーフに描いたのではないかと推察できる。

目次

ごあいさつ	2
施設概要	3
展示 EXHIBITION	4
連携 COLLABORATION	10
講座 WORKSHOP	16
印刷物 PUBLICATION	17
事業 PROJECT	19
教育 EDUCATION	22
収集 COLLECTION	22
実績 RESULT	23

ごあいさつ

東北学院大学は、2009（平成21）年11月に開館し、今年で5周年を迎えます。日頃は当館の活動に対し、並々ならぬご支援、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

当館は、大学の研究を社会にむけてご紹介する大切な窓口であるとともに、文化の持つ魅力や歴史を学ぶことの意義を、広く社会にむけて発信していく大学博物館です。そのために、次の三つの活動を重点的に行っています。

第一に、博物館学芸員資格課程を学ぶ大学生と、学芸研究員として当館に勤務する大学院生の教育です。人文学を学んで社会に出ていく学生たちには、地域文化を生かしていくことや異文化理解の重要性を、社会人として深く理解してもらいたいと考えています。また、当館の学芸研究員経験者からは、博物館学芸員や文化財担当者、埋蔵文化財技師として毎年1～2名を輩出しています。博物館の文化を担う人材育成は、当館の重要な課題です。

第二に、大学博物館の存在意義を高めるために、大学博物館同士の連携を進めています。今年度は、京都・大学ミュージアム連携や東北福祉大学との連携に

よって、東北歴史博物館で大規模な企画展を開催しました。学生たちは他大学の学生や、他大学の博物館学芸員資格課程担当教員らとの協働によって、展示を上げる機会を得ました。公立博物館とはまた一味違った博物館の魅力を発信していきたいと考えています。

第三に、東日本大震災からのミュージアムの復興に対する継続的な支援を行っています。大学博物館は、復興のための補助金の受け皿となりながら、学生たちの被災地での活動によって、独自の復興支援が可能であると考えています。文化財やコレクションの復旧作業への協力はもちろんのこと、復興過程で地域文化や歴史の価値が見直されている被災地において、大学博物館にしかできないことを模索しながら、活動を展開しています。

こうした活動を通じて、これからも学生たちとともに一歩ずつ着実に成長していきたいと考えています。ぜひ、今後とも当館へのご指導、ご協力を、よろしくお願いいたします。

東北学院大学博物館



施設概要

当館は、本学土樋キャンパスに隣接し、仙台市中心部の愛宕上杉通りに面して建つ大学博物館である。本学の教育、研究成果にかかわる学術的価値を有する資料を収集整理、保管、公開、普及し、本学の活動を社会に伝えることを目的としている。また、大学における博物館学芸員資格課程の実習施設としての役割を担い、実物資料を用いた学習機会を提供する。

博物館は鉄骨平屋建て建物面積は約300㎡である。展示室（180㎡）のほか、収蔵庫、実習室、事務室、多目的トイレ等を有し、24時間の空調、機械警備等によって貴重な資料等の管理環境を整備している。

組織は、館長のもと学芸員、事務職員、学芸研究員である。運営に関する事項を審議する機関として、東北学院大学博物館運営委員会を置いている。

郵便番号：980-8511

住 所：宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

電話番号：022-264-6920 FAX：022-264-6917

休 館 日：日曜日、祝日・休日、大学の定める休業日

開館時間：午前9時30分～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

入 館 料：一般200円（減免措置あり）

※学校法人東北学院の役員・教職員・学生・生徒・園児・旧役員・旧教職員は無料。大学同窓生は、ホームカミング・デー等の館長の定める行事日は無料。未就学児、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校もしくは高等専門学校の児童、生徒又は学生、65歳以上の方、障害者基本法に定める障害者と介護者1名は無料。



展示 EXHIBITION

2014年の活動概要

今年度の企画展は、「侍がみた東アジア図」展（平成26年5月17日～7月10日）と、「飯坂温泉—絵葉書と地図でさぐる戦前のすがた—」展（平成26年7月26日～平成26年9月25日）の2回を開催した。このほか、博物館実習や大学院教育の一貫で、コーナー展として、「アイヌの祭り・チプサンケ」、「となりの付喪神—モノに憑くという“愉しみ”—」を実施した。

「侍がみた東アジア図」展では、初公開となる「大明地理之圖」（文化11（1814）年、細谷良夫氏所蔵）を展示し、その東アジア図が描かれた背景と作者の細矢玄俊の足跡を辿る関連展示も行い「細矢家文書」（本学東

北文化研究所所蔵）を展示した。内容は、細谷家6世玄俊の経歴や家族の生活に関する史料、山形藩秋元家御用医としての任務や城下での経済活動を示す史料等を展示した。期間中は約1000人が来館し、メディアにも取り上げられるなど好評を博した。

「飯坂温泉—絵葉書と地図でさぐる戦前のすがた—」展は、飯坂温泉絵はがきプロジェクトとの共同企画で、絵はがき約50枚から戦前の飯坂温泉の状況と、当時の東北の観光開発について紹介する展示であった。同展は、福島市飯坂町の旧堀切邸十間蔵に巡回し、地元の市民団体や温泉関係者等とのコラボレーションでイベントを開催した。（平成26年11月8・9日）。



企画展「侍がみた東アジア図」展に先立って行われた専門家による調査



企画展「飯坂温泉」関連イベント、現地でのようす

企画展『侍がみた東アジア図』

企画展 「侍がみた東アジア図」

「大明地理之圖」は明時代(1368-1644)の中国を中心に、朝鮮・日本・琉球・安南(ベトナム)などを描いた巨大な東アジア地図です。その成立は17世紀前半と考えられています。

この展示の「大明地理之圖」は、山形城下で代々医業を営む家系に産まれた細矢玄俊(惟直、1786-1849)が、文化11(1814)年に滞在中の京都で模写したものとされています。「大明地理之圖」は、他にも複数の模写が作成されましたが、本展示品はその精巧さと保存状態からいって群を抜く逸品です。

内容的には、東アジア各地の都市ばかりでなく、万里の長城や三国志関連の景勝地が多く描かれ、漢文による説明文が書き込まれたところもあります。また日明貿易の主要ルートだった九州から寧波(ニンポウ)に向かう、まげを結った男性が乗る帆船も描かれています。「鎖国」の時代に生きた人々は、この地図を眺めては、遠い異郷の風景や人々の暮らしに思いをめぐらしていたのかもしれない。

「大明地理之圖」は、江戸時代の東アジアに関する知識を伝える貴重な絵地図なのです。

文学部歴史学准教授 小沼孝博

展示内容

- 東アジア図の公開
「大明地理之圖」文化11(1814)年
(細谷良夫氏所蔵)
- 「細谷家文書」でたどる細矢玄俊の足跡
 - 1 細谷家の歴史と6世玄俊の経歴
 - 2 玄俊の家族
 - 3 山形藩秋元家御用医としての任務
 - 4 山形城下での経済活動
(東北学院大学東北文化研究所所蔵) ほか

関連イベント

研究ワークショップ『清朝史研究をめぐる史料と史跡—研究資源の活用と共有に向けて—』

2014年5月30日(金)13:00~17:00
東北学院大学土樋キャンパス8号館3階第3会議室

- 特別講演
細谷良夫(東北学院大学名誉教授)
「尚可喜をめぐる諸史料—研究の総括をかねて」

- 報告
劉小萌(中国社会科学院近代史研究所研究員)
「清朝遺跡考察の新成果」[中国語]
張永江(中国人民大学清史研究所教授)
「近年中国清史研究の動向」[中国語]
小沼孝博(東北学院大学文学部准教授)
「山形・細谷家伝来「大明地理之圖」簡介」

主催 東北学院大学アジア流域文化研究所「新時代における日中韓隣域社会の宗教文化構造研究プロジェクト」
後援 滿族史研究会

※申込み必要。参加を希望される方は事前に下記(東北学院大学 小沼孝博)へ要連絡。
E-mail: onuma425@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

利用案内

- * 開館時間
午前9時30分~午後5時
- * 休館日
日曜日、祝日・休日、大学の定める休業日
- * 入館料
一般200円

※学校法人東北学院の役員・教職員・学生・生徒・園児・旧役員・旧教職員は無料。大学同窓生は、ホームカミング・デー等の館長の定める行事日は無料。未就学児、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校もしくは高等専門学校校の児童、生徒又は学生、65歳以上の方、障害者基本法に定める障害者と介護者1名は無料。

- * 来館方法
地下鉄「五橋駅」下車、愛宕上杉通を南方向に徒歩5分
- * 駐車場
障害者専用駐車場3台



必見! 巨大な東アジア図



「大明地理之圖」 文化11年(1811)
細谷良夫氏(本学名誉教授)所蔵

東北学院大学博物館 企画展

侍がみた 東アジア図

初公開! 4メートルを超える巨大な東アジア図。
描いたのは今から二〇〇年以上前の医師細矢玄俊。京に学んだ山形の医師は、これを描くことで大陸の歴史と地理を理解しようとした。「細矢家文書」から知られざる医師の足跡を追う。

平成26年 5月17日(土)~
7月10日(木)

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1
TEL.022-264-6920

平成 26 年度春期企画展

初公開!

侍がみた東アジア図



展示内容

- 東アジア図の公開
- 「大明地理之圖」 文化 11 (1814) 年
(細谷良夫氏所蔵)
- 細矢玄俊の足跡
- 1 細谷家の歴史と 6 世玄俊の経歴
- 2 玄俊の家族
- 3 山形藩秋元家御用医としての任務
- 4 山形城下での経済活動
- 「細矢家文書」(本学東北文化研究所所蔵)

初公開! 4メートルを超える巨大な東アジア図。

描いたのは今から二〇〇年以上前の医師 細矢玄俊。京に学んだ山形の医師は、これを描くことで大陸の歴史と地理を理解しようと試みた。「細矢家文書」から知られざる医師の足跡を追う。

(文学部歴史学科准教授 小沼孝博)

開催期間:平成 26 年 5 月 17 日(土)~7 月 10 日(木)

開館時間:午前9時30分~午後5時(入館は4時30分まで) 休館日:日曜日・祝日、授業期間外は土曜休館

入館料:一般 200 円 減免措置あり(要問合せ)、本学学生・教職員等は入場無料

交通案内:地下鉄「五橋」駅下車、愛宕上杉通を南方向に徒歩 5 分 障害者等用駐車場3台あり

東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目 3-1

TEL 022-264-6920(直通) URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

企画展『飯坂温泉 —絵葉書と地図でさぐる戦前のすがた—』



飯坂小唄に誘われて・・・

♪ハア— 行こか松島ナ
行こか松島 帰ろか東京
ここは飯坂 お湯のなか
寄らんしよ 来らんしよ 廻らんしよ
ササカ サカ サカ 飯坂へ♪

JR福島駅から福島交通飯坂電車に揺られて25分、飯坂温泉駅に到着すると陽気な飯坂小唄が観光客を迎える。飯坂町は福島県を代表する温泉街であり、ガイドブックや観光雑誌にも度々登場する有名ぶりだ。しかしながら、ここがかつては東北一の色街として栄えた町という歴史をどのくらいの人々が知っているだろうか？飯坂の綺麗な部分だけにスポットが当てられた現代のガイドブックや観光雑誌からは、色街としての飯坂の歴史を読み取ることは不可能である。

そこで私は、色街として表象された時代の資料を収集し、そこから当時の「情景」、つまり、当時の人々が見ていたものに現代の私たちがどう没入していくのかを読み取る作業に専念した。

当時の人々が見ていた風景やそこで感じる雰囲気などは、残念ながら私たちには感じるできないが、展示品である当時の絵葉書やパンフレット、観光ガイドブック等の資料をもとに、皆様が当時の「情景」を追体験できたのなら幸いである。

加藤幸治(歴史学科准教授)・蒲倉綾子(歴史学科卒業生)



飯坂温泉の近代 光と影

＜飯坂の繁栄＞

飯坂町が世に広まったのは、明治11年の新道工事とやらんで、明治15年からの飯坂新道開きにより、交通が便利となりはじめたところである。さらに、明治41年の第一次飯坂大火により、各所に散在する遊廓を集めて移転改築させられ、摺上川を東にながめて多くの遊廓が一か所に押しやられた。しかしこの場所が飯坂随一の絶景であったため、皮肉な結果として飯坂町の名が知れ渡った。

その後、負傷兵の為の転地療養地の指定や軽便の誕生により、「東北一の温泉場」として世間に紹介された。

さらに大正時代には、飯坂の主産業が農業から温泉を主とする消費の町へと転換され、町全体が人口の増加と共に段々と都市的性格を帯びいった。また、この時期には飯坂の有名なスポットである十綱橋が吊橋から鉄骨の永久橋に架け替えられ、やがて飯坂電車が開通するようになる。

＜飯坂の衰退＞

飯坂町の衰退は昭和6年からの満州事変と昭和12年からの日中戦争によって生じた。

これにより飯坂町全体が自粛ムードになり徐々に色街としての機能が薄れて行った。

さらに飯坂町を追い込んだのは昭和19年の第二次飯坂大火である。これは、飯坂町の有名スポットの一つ、十綱橋付近から出火したことが原因で、十綱橋の下を流れる摺上川に沿った各旅館に殆どが燃えてしまった大事件であった。

終戦後は、進駐軍が芸妓ガールを要求したことに依り、再び飯坂町が色街として機能し始めるが、時代の流れと共に芸妓の質の低下や売春行為が問題となり、ついに昭和31年売春防止法が制定された。

平成26年度第2回企画展

い い ざ か お ん せ ん

飯坂温泉

— 絵葉書と地図でさぐる戦前のすがた —



福島市から飯坂電車にゆられて25分、終着駅をおりと陽気な飯坂小唄が観光客を迎える。ここは明治から戦前にかけて、東京・上野から東北を訪ねる主要な観光地として発展し、東北随一の色街としても知られていた。この展示では、絵葉書や地図、ガイドブックなどの資料を一堂に展示し、当時の「情景」を追体験してもらう試みである。

加藤幸治（歴史学科准教授）・蒲倉綾子（歴史学科卒業生）

展示資料：飯坂温泉の戦前の絵葉書約70点
飯坂温泉の戦前の地図や
パンフレット約5点

開催期間：平成26年7月26日（土）～平成26年9月25日（木）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで） 休館日：日曜日・祝日、授業期間外は土曜休館

入館料：一般200円 減免措置あり（要問合せ）、本学学生・教職員等は入場無料

交通案内：地下鉄「五橋」駅下車、愛宕上杉通を南方向に徒歩5分 障害者等用駐車場3台あり

東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL 022-264-6920(直通) URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

コーナー展 『となりの付喪神 —モノに憑くという“愉しみ”—』



博物館実習生によるミニ展示

付喪神(つくもがみ)とは、打ち捨てられた古い道具に零落した神が宿るもので、中世文学や絵画に登場します。近世には妖怪として庶民向けの読み物やおもちゃに登場し、現代のマンガや様々なキャラクターのアイデアの源ともなりました。

学生たちが民具を化けさせて展示します。日本人の心に深く浸透した付喪神を通して、日本人のモノとの関係を知るきっかけとしたいと思います。

文学部歴史学科准教授 加藤幸治



おれの友達、出てこい「つくも神」!

ふるいランドセルや使わなくなったおもちゃが、もしもようかいに化けたら?!

「つくもがみ」とはモノが化けた妖怪のこと。

みんなのちかくに、ちょっとこわくて楽しい「つくもがみ」がいるかも…

大学生たちが、民具に宿った付喪神を呼び出してしまったのじゃ〜。



文車妖妃(ふぐるまようひ)

文車の模型をみんなで色を塗ったり飾ったりして妖怪にする。

連携 COLLABORATION

2014年の活動概要

今年度の他館との連携による展示として、東北歴史博物館と宮城県慶長遣欧使節船ミュージアム（サンファン館）での展覧会を開催した。

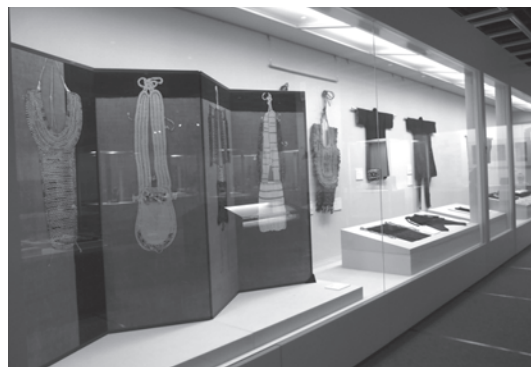
前者は、京都・大学ミュージアム連携・東北歴史博物館・東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館との共催で、

東北歴史博物館を会場に「大学は宝箱！—京都・大学ミュージアム連携の底力 出開帳 in 東北—」として実施した。

後者は、サンファン館との共催で、「牡鹿半島・海のくらしの風景展 —古写真と民具で振り返る捕鯨の町・鮎川—」を開催した。



開会式の様子



東北福祉大学とのコラボ展示



京都外国語大学の学生との共同作業



サンファン館での展示作業



企画展「牡鹿半島・海のくらしの風景展」の会場

企画展『大学は宝箱！—京都・大学ミュージアム連携の底力 出開帳 in 東北—』

大谷大学博物館
京都外国語大学国際文化資料館
京都教育大学教育資料館
まなびの森ミュージアム
京都工芸繊維大学美術工芸資料館
京都嵯峨芸術大学附属博物館
京都市立芸術大学芸術資料館
京都精華大学ギャラリーフーロル
京都造形芸術大学芸術館
京都大学総合博物館
同志社大学歴史資料館
佛敎大学宗教文化ミュージアム
立命館大学国際平和ミュージアム
立命館大学アート・リサーチセンター
龍谷大学龍谷ミュージアム
東北学院大学博物館
東北福祉大学芹沢銚介美術工芸館

大谷大学博物館
京都外国語大学国際文化資料館
京都教育大学教育資料館
まなびの森ミュージアム
京都工芸繊維大学美術工芸資料館
京都嵯峨芸術大学附属博物館
京都市立芸術大学芸術資料館
京都精華大学ギャラリーフーロル
京都造形芸術大学芸術館
京都大学総合博物館
同志社大学歴史資料館
佛敎大学宗教文化ミュージアム
立命館大学国際平和ミュージアム
立命館大学アート・リサーチセンター
龍谷大学龍谷ミュージアム
東北学院大学博物館
東北福祉大学芹沢銚介美術工芸館

大学は
宝箱！

京都・大学ミュージアム連携の底力
出開帳 in 東北

会期 11月1日(土)から11月30日(日)

会場 東北歴史博物館
〒985-0862
宮城県多賀城市高崎1-22-1
TEL:022-368-0106 FAX:022-368-0103
JR東北本線「国府多賀城駅」より(仙台駅から14分)無料駐車場「91台」大型バス10台

入館料 一般大学生 500円(400円)
シルバ 400円(320円)
高校生以下 無料 * (内は20名以上の団体料金)

開館時間 9時30分から17時(入館は16時30分まで)

休館日 月曜日(祝日を除く)

京都・大学ミュージアム連携 東北歴史博物館
University Museum Association of Kyoto TOHOKU HISTORY MUSEUM

企画: 京都・大学ミュージアム連携合同展覧会実行委員会 主催: 京都・大学ミュージアム連携
共催: 京都・大学ミュージアム連携参加校、東北歴史博物館、東北学院大学博物館、東北福祉大学芹沢銚介美術工芸館
助成: 「京都・大学ミュージアム連携」による地域文化活性化プロジェクト(2014年度文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業)

H P: <http://www.thm.pref.miyagi.jp> (東北歴史博物館) <http://univ-museum-kyoto.com> (京都・大学ミュージアム連携)

大学は宝箱!



ごあいさつ

京都・大学ミュージアム連携は、2011年に文化庁文化芸術振興費補助金「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の助成を受けて、京都の大学ミュージアムが収蔵する文化遺産をひろく展示・公開することにより、京都という地域の文化的特性を示すとともに、京都文化を活性化することを目的として成立しました。

京都は「大学のまち」と呼ばれることがありますが、じつは「大学ミュージアムのまち」と言ってもよいほどに、多くの大学ミュージアムが、それぞれの個性を競いながら活動を続けています。その各大学ミュージアムが力を合わせて、より強力な活動をして、各館の活動や収蔵資料の魅力を知っていただき、京都の新しい魅力を感じ取っていただきたいと考えて、活動をはじめました。

2012年度に実施した京都・大学ミュージアム連携合同展覧会「大学は宝箱!—京の大学ミュージアム収蔵品展—」は、マスコミにも多く取り上げられ社会的注目を集めるとともに、全国の各都市における大学ミュージアムからも注目を集めました。2013年度には、九州産業大学美術館のご協力のもと、福岡市内にある九州大学総合研究博物館、九州産業大学美術館、西南学院大学博物館および佐賀大学美術館と京都・大学ミュージアム連携との合同展覧会を九州産業大学美術館で開催し、地域を越えた大学ミュージアムの交流を実現しました。

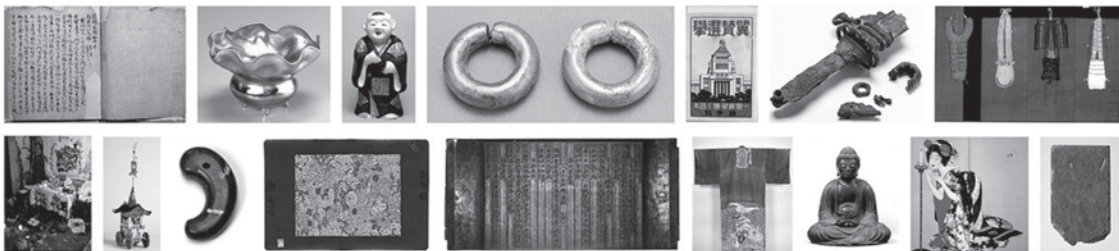
これにより、京都文化の多様性を九州地方にも伝えることができ、同時に京都の地域文化の活性化にもつながりました。

今年度は、東北歴史博物館および東北学院大学博物館、東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館のご協力を得て、京都・大学ミュージアム連携合同展の場を東北に求め、本連携の事業とその意義、そして京都の大学ミュージアムが収蔵する多彩な考古歴史資料、美術工芸資料をより多くの方々に知っていただきたいと考えています。大学ミュージアム連携の輪をさらに広げることにより、それぞれの館の活動や収蔵品の数々を多くの皆様楽しんでいただきたいと思います。

出品作品は、各大学ミュージアムがそれぞれの収蔵品のなかから選んだ約140点であり、全体はおおきく三部から構成されます。

第I部は、各大学ミュージアムの代表的な収蔵資料であり、大学の個性を示し、同時に美術的、歴史的にも価値の高い「大学の宝物」です。第II部は、京都の大学ならではの、京都の歴史や文化、美術工芸の発展などを伝える作品、資料類を「京都の歴史と暮らし」として展示します。そして、第III部は、京都と東北、各大学ミュージアムと東北との関係を示す作品、資料を展示する「東北との絆」です。

京都と東北の新しい絆をお楽しみ下さい。



関連企画

シンポジウム

「アクティブにまなぶ大学生たちの力」

いま、大学生が主体となった諸活動が、地域に活気をもたらしています。その活動範囲はますます広がりを見せています。まちづくりのための地域の魅力発見や、地域活性化のためのイベントの企画、伝統文化の継承活動、子どもたちの居場所づくり、そして被災地の文化面での復興…。地域のさまざまなアクターとの連携は、大学生の社会性を磨くことにつながりますが、なによりそこで発揮される新しい発想と企画・実践力は、地域に新しい風を吹き込むことがあります。

今回のシンポジウムでは、京都と東北の大学による大学ミュージアムを拠点とした活動から、アクティブにまなぶ大学生たちの力の可能性と課題について議論します。

開催日時：2014年11月1日(土) 13:30~(開場13:00)

開催場所：東北歴史博物館 @ @ @ @ @ @ @ @

パネリスト：岩崎 奈緒子(京都大学総合博物館 教授)
加藤 幸治(東北学院大学博物館 准教授)
芳野 明(京都嵯峨芸術大学附属博物館 館長)

■会場

東北歴史博物館

住所：〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1

TEL：022-368-0101(内) FAX：022-368-0103(内)

HP：<http://www.thm.pref.miyagi.jp/>

E-mail：thm-service@pref.miyagi.jp

お問い合わせ専用番号：022-368-0106

■アクセス

●JR線をご利用の方

JR東北線(仙台駅から14分)

「国府多賀城駅」となり

JR仙石線「多賀城駅」下車 徒歩25分

●お車をご利用の方

仙台東部道路「仙台北C」から約10分

国道4号線苦竹インターから

国道45号線を塩釜方向に8km(約25分)

仙台北港フェリーターミナルから15分

無料駐車場(191台・大型バス10台)

■京都・大学ミュージアム連携について

京都・大学ミュージアム連携運営委員会事務局

住所：〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

(京都工芸繊維大学美術工芸資料館内)

TEL：075-724-7924 FAX：075-724-7920

HP：<http://univ-museum-kyoto.com>

E-mail：question-univ-museum-kyoto@kit.ac.jp



京都・大学ミュージアム連携との協働展示

○大学博物館の連携による展覧会

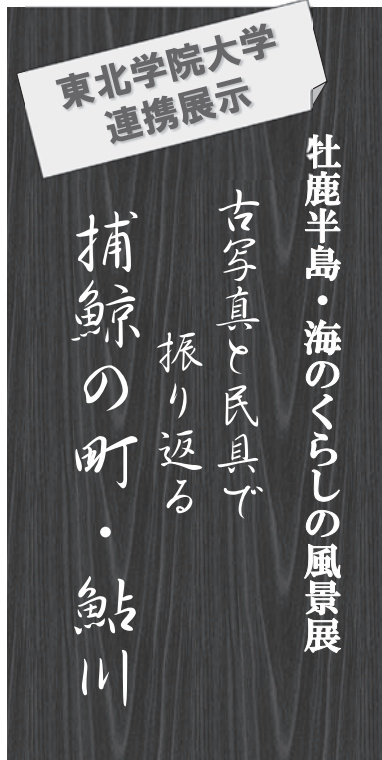
京都・大学ミュージアム連携は、京都の大学ミュージアムが収蔵する文化遺産をひろく展示・公開することにより、京都という地域の文化的特性を示すとともに、京都文化を活性化することを目的として2011年に成立した。この連携の参加ミュージアムが、それぞれ資料を持ち寄って開催する展示は、2012年度に京都大学総合博物館で、2013年度に、九州産業大学美術館を会場に行われ、特に九州での展示には福岡市内にある九州大学総合研究博物館、九州産業大学美術館、西南学院大学博物館および佐賀大学美術館との合同展覧会となった。

今回は、京都・大学ミュージアム連携合同展の場を東北に求め、企画展「大学は宝箱！ 京都・大学ミュージアム連携の底力 出開帳 in 東北」と題して東北歴史博物館を会場に開催することとなった。この企画は、京都の大学ミュージアム14館と、東北学院大学博物館・東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館が連携し、それぞれの収蔵品の中から選りすぐった資料約150点を展示するものである。展示資料は、美術的、歴史的価値の高い収蔵資料から集めた第Ⅰ部「大学の宝物」、京都の歴史や文化、美術工芸などを伝える作品・資料類を展示する第Ⅱ部「京都の歴史と暮らし」、京都と東北、各大学ミュージアムと東北との関係を示す作品・資料類を展示する第Ⅲ部「東北との絆」から構成した。

東北側からの展示は、東北学院大学博物館と東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館のコラボレーションで構成され、芹沢銈介の名品「ばんどり図屏風」と、福島県収集のセナカアテの民具を並べて展示した。民具の造形と、それを見事に意匠化した芹沢銈介の芸術性を愉しむことができる。また、京都外国語大学から出品された「死者の日祭壇」は、10月末から11月はじめにかけて行われる死者供養の祭りで飾られる祭壇で、キリスト教徒と土着宗教が混交した民俗的に興味深いものである。これらの展示には、本学博物館学芸員資格課程の学生を中心に3・4年生15名が作業に参加した。

11月1日、同館関係者や友の会、ボランティア、学生など40名ほどが参列するなか、開会セレモニーが執り行なわれた。東北歴史博物館長の高橋仁館長、本展示の実行委員長である京都工芸繊維大学美術工芸資料館の並木誠士館長によるあいさつに引き続き、東北学院大学博物館長の辻秀人教授も出席してオープニングのテープカットが行われた。同日午後には、東北歴史博物館講堂にてシンポジウム「アクティヴに学ぶ大学生たちの力」が開催された。内容は、地域社会に分け入って主体的に活動する大学生たちの活動の意義や可能性がテーマで、本学歴史学科の民俗学実習文化財レスキュー班の3年生5名が現在被災地で展開している被災文化財の展示とくらしのエピソード収集活動を紹介した。

企画展『牡鹿半島・海のくらしの風景展 一古写真と民具で振り返る捕鯨の町・鮎川』



時代を超えてよみがえる 底抜けに楽しいくらしの風景！

牡鹿半島の先端に位置する鮎川は、近代捕鯨の前線基地として明治初期から栄え、商業捕鯨禁止後も小型沿岸捕鯨を中心に捕鯨文化が育まれてきました。

今回の展示では、文化財レスキューされ保全作業が終わった旧鮎川収蔵庫の捕鯨用具、大震災前に地域で収集された古写真などを展示し、昭和初期から中期の鮎川の捕鯨と鯨まつりの風景をふりかえります。

とりわけ古写真は、「鮎川の風景を思う会」からの提供によるもので、現在東北学院大学の学生がその整理と内容の調査を始めているものです。今後も、地域で展示する機会を作っていこうと考えています。

みなさんの胸のうちに今も鮮明にある、くらしの風景を、こうした資料からよみがえらせていきましょう。

東北学院大学文学部准教授
加藤 幸治



捕鯨の町：鮎川の盛衰

牡鹿半島の先端に位置する鮎川の捕鯨文化は、明治39年に山口を本拠地とする東洋捕鯨が進出したことにより、本格的に花開いていきました。高知や和歌山をはじめ、全国各地の有力な捕鯨会社が事業所を設け、素朴な漁村にすぎなかった鮎川は、捕鯨基地の町として活況を呈するに至ったのです。

大正末期になると、外部資本に依存していた大型鯨類の捕鯨に対し、地元有力者たちによって鮎川捕鯨が設立され、マッコウクジラを取って肥料を製造するなど捕鯨が地場産業として定着していきます。

また、それまでゴンドウクジラをとっていた勇幸丸を和歌山の太地から持ち込んだ長谷川熊蔵によって、金華山沖で捕鯨会社に許可されていなかったミンククジラを狙う小型沿岸捕鯨が、鮎川に基盤を置いた捕鯨として発展していきます。大型鯨類の捕鯨船に対し、こうしたいわば家業として行う捕鯨の船を特に“ミンク船”と呼ぶことには、鮎川の地元の産業としての親しみが込められているようです。

戦後、食料難への対策もあって、南水洋(南極海周辺)での捕鯨が再開され、鮎川の人々は小型沿岸捕鯨と大型鯨類の遠洋捕鯨にも深くかかわっていきました。南水洋に行った経験は、男たちにとって誇りであり、その証として異国の土産物や動物・貝類などの標本を家に飾っておくなどしている人も多かったようです。

鮎川の捕鯨産業は、国際規制による商業捕鯨の全面停止をうけて衰退していきました。鮎川で盛んだったミンククジラ漁も禁止され、現在の鮎川ではツチクジラ等の小型沿岸捕鯨と調査捕鯨において捕鯨が続けられています。

Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

7.21→10.26



慶長遣欧使節出帆400年記念事業

海のまちと帆船 希望の帆船

7月21日(祝・月)は、
海の日のため入館無料!!

◎企画展示

- ・慶長使節派遣と慶長大津波
- ・「サン・ファン・パウティスタ」と石巻の人びと
- ・震災を乗り越えたサン・ファン・パウティスタ

◎シンポジウム

第一部「海と向き合う人々の民俗学」

10月25日(土)

場所/サン・ファン館 セミナールーム

◎企画展パネル巡回展

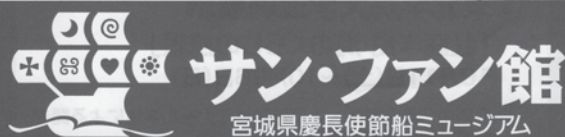
◎東北学院大学連携展示

「牡鹿半島・海のくらしの風景」

10月11日(土)~26日(日)



慶長使節船「サン・ファン・パウティスタ」(宮城県慶長使節船ミュージアムに展示公開中)



宮城県慶長使節船ミュージアム



〒986-2135 宮城県石巻市渡波字大森30-2

☎ 0225-24-2210

URL <http://www.santjuan.or.jp/>
E-mail info@santjuan.or.jp

- [入館料] 一般700円(高校生以下無料)
[開館時間] 午前9時30分~午後4時30分※8月中は午後5時30分まで
(最終入館は閉館30分前まで)
[休館日] 毎週火曜日(祝祭日を除く)

主催: 宮城県慶長使節船ミュージアム(愛称:サン・ファン館) 公益財団法人慶長遣欧使節船協会

後援: 宮城県、石巻市、河北新報社、石巻かほく、石巻日日新聞社、 仙台放送局、TBC東北放送、 山形テレビ、K-TV日本放送、ラジオ石巻FM76.4

講座 WORKSHOP

実験民具学講座Ⅰ「全身運動で布を織る—天秤腰機の実験—」

民俗学の物質文化研究の醍醐味を楽しんでもらうための企画として「実験民具学講座」を開設、学生有志が参加し民俗技術の復元に挑みその結果を展示に反映

している。初回は「全身運動で布を織る」と題し、古代の機の形式とされる天秤腰機で実際に布を織ってみる体験をした。

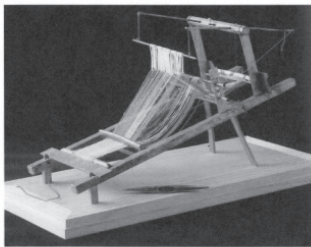
第一回 実験民具学講座

全身運動で布を織る

—天秤腰機の実験—

<実験民具学とは>

「実験民具学」とは、民具を使ったり様々な生活の技術を体験したりするなかで、民具のはたらきや人々の知恵について理解を深めることが第一の目的です。しかし、本当の目的はそうした体験を通して、参加者や地域の生活者との対話を育むところにあります。“伝統文化”を過去の文化の貯蔵庫とするのではなく、現代的な楽しみを生み出す資源としてとらえ直そうとするものです。さあ、民具を手にするところから始めましょう。



沖ノ島出土の古代の金剛製天秤腰機奉納品

参加費：無料

(開催時間中に自由に会場にお越しください)


<天秤腰機(てんびんこしはた)とは>

今回のテーマは、天秤腰機を使ってみる事です。原始機～高機に至る織機の発展において、その中間に位置付けられる天秤腰機は、両手、両足、腰、背中などを一連の全身運動によって動作し、布を織りあげていく技術です。糸が切れやすい樹皮布や麻布などを織るために、現代にまでその技術は継承されてきたこの天秤腰機を、復元機を使って体験しましょう。きっと布の組織ができていく過程が、身を持って理解できるでしょう。

開催日時：平成27年1月10日(土)
午後1時30分～午後4時

開催場所：東北学院大学博物館展示室内

企画：実験民具学ワークショップ
 座長：加藤幸治(文学部歴史学科准教授)





印刷物 PUBLICATION

博物館リーフレット

施設概要

東北学院大学博物館は、本学土樋キャンパスに隣接し、仙台中心部の愛宕上杉通りに面して建つ大学博物館である。当館は、本学の教育、研究成果に関わる学術的価値を有する資料を収集整理、保管、公開、普及し、本学の活動を社会的に伝えることを目的としている。また、大学博物館における博物館学芸員資格課程の実習施設としての役割を担い、実物資料を用いた学習機会を提供する。

建物は鉄骨平屋建て、建物面積は約300㎡である。展示室面積180㎡、実習室面積80㎡、収蔵庫面積30㎡に、事務室、トイレ等で構成される。

■近年開催した企画展の例

2014年「待がみた東アジア図 一初公開「大明地理之圖」―
「飯坂温泉 一絵巻書と地図で探る戦前のすがた―」

2013年「仙台藩土山本家の歴史 一知行行状を読み解く―
「テフォレスト館の魅力再発見」

2012年「絵馬になつたムカデたち 一角田市福徳寺の絵馬―
「人体はいかに描かれたか 一江戸時代の明堂人と銅人形―」

■常設展示の例

- 日本最北の前期古墳「大塚森古墳」
- 中世人の信仰「松島雄島海底採集板碑」
- 庶民の願い「東北の庶民信仰資料・生活用品」



博物館外観

開館時間 月曜日～土曜日
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 日曜日、祝日・休日、大学の定める休業日

入館料 一般200円
但し、学校法人東北学院の教職員・学生・大学生、大学院生は、チームカレッジ等の協賛の定めも行事日無料、私立学芸、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校若しくは高等専門学校、の児童、生徒又は学生、65歳以上の方、障害者基本法に定める障害者と介護者1名は無料

問合せ先 〒980-8511
宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1
電話番号・022-264-6920

交通方法 地下鉄「五橋駅」下車、愛宕上杉通りを南方向に徒歩5分

駐車場 身体障害者等用駐車場3台

アクセス




QRコードからもHPにアクセス
<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/facilities/museum/>

ふく かん てき
**複眼的に
かんがえる**
II
たのしい!

歴史 民俗
考古



東北学院大学博物館
Tohoku Gakuin University Museum



東北学院大学
博物館
MUSEUM

ご挨拶

東北学院大学博物館ようこそお出でいただきました。心から歓迎いたします。


さて、東北学院大学博物館は平成23年11月17日に開館いたしました。博物館は東北学院大学の研究成果、中でも文学部歴史学科の研究成果を社会の皆様にお伝えすることを目的としています。また、東日本大震災で太平洋沿岸にある多くの博物館が被災しました。当館は被災博物館の支援、被災文化財のレスキューも行ってまいりました。展示では、歴史学科考古ゼミの発掘調査成果、民俗学ゼミのフィールド調査、歴史学ゼミの研究成果などを展示しています。お楽しみいただくとともに、東北学院大学の活動につきましてもご理解、ご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

東北学院大学博物館
館長 辻 秀人

所蔵資料紹介

「墨書人面土器」


土器の外面に人の顔が描かれた墨書人面土器は、威(罪・穢・病氣・災厄などをはらい除く行事)の際に、息を吹きかけてそれを河に流されたものである。河川跡などで発見される墨書人面土器は、その目的で使用されたものと考えられる。当館所蔵の墨書人面土器は楕圓成形の土器であり、形式から考えて平安時代前期のものと推定されている。昭和30年代に行われた砂神川河川改修工事の際に出土した。



墨書人面土器展開図

「おしらすま」

岩手県を中心とした東北に広く分布するおしらすまは、蚕の神、農業の神、馬の神などとして信仰されてきた。当館所蔵資料は、家の神として保管された毎年の祭日に衣を一枚重ね足して「遊ばせ」る一般的なおしらすまとは異なりオガミサマイイコなどと呼ばれた民間宗教者が祭りに用いたものとされている。一関市川崎町薄衣の大乗寺に保管されていたもので、そのなかでも1608(慶長13)年の記名の入った非常に古いおしらすまである。



おしらすま

学びの場としての博物館

◆博物館学芸員課程の実習


大学博物館は、週一回の3年生開講の博物館実習、および博物館実務実習における学びの場として活用されている。実習では、実物資料を扱いながら学芸員の実践的な技術訓練が行われている。



博物館実習への展示準備

◆学芸員研究制度

東北学院大学博物館では、即戦力の博物館学芸員を輩出するため、文学研究科の大学院生を学芸員研究員として任用している。学芸員研究員は学芸員とともに、資料の収集、整理、保存、閲覧、展示および調査研究等、博物館における専門的業務に携わっている。学芸員経験者は、東北各県の学芸員・文化財担当者として多数活躍している。



学芸員研究員の活動

博物館ポスター

歴史

民俗

考古



ふく がん てき
複眼的に = たのしい!
かんがえる

【開館時間】 月曜日～土曜日 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
【休館日】 日曜日、祝日・休日、大学の定める休業日
【入館料】 一般 200円 学校法人東北学院の役員・教職員・学生・生徒・童児・旧役員・旧教職員は無料。大学同窓生は、ホームカミングデー等の館長の定める行事日は無料。米沢学院、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校もし、は高等専門学校の児童、生徒又は学生、65歳以上の方、障害者基本法に定める障害者と介護者1名は無料。

【問合せ先】 住所 〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1 電話番号 022-264-6920
【ホームページ】 <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/facilities/museum/>
【来館方法】 地下鉄「五橋駅」下車、愛宕上杉通りを南方向に徒歩5分
【駐車場】 身体障害者専用駐車場3台



QRコードから64HPにアクセス!

東北学院大学博物館
Tohoku Gakuin University Museum

事業 PROJECT

*文化庁：被災博物館再興事業 | 事業28 「被災した民俗資料のバックデータ収集事業」

事業名／被災した民俗資料のバックデータ収集事業
事業区分／(2)修理した資料の整理・データベース化を行う事業
対象施設／石巻文化センター（公立・類似）
事業期間／平成24年7月～平成27年3月

- ・展示解説員兼調査員（学生）の雇用 アルバイト 30人×2日 ※一括計上
- ・会場及び附帯設備借料 一式
- ・展示資料の輸送（委託） 資料500点
- ・ポスター、チラシ、リーフレット製作印刷

【事業内容】

- 事業費：3,700,000円
- 実施方法：東北学院大学博物館への間接補助により実施。東北学院大学博物館で工程管理を行い、下記のとおり実施。

■実施内容：

①被災地での移動博物館（被災地でのヒアリングによるバックデータの収集のため）

【石巻市鮎川】※仮説住宅入居者等を対象

会期：平成26年8月（4日間（予定））※準備等1日間

会場：鮎川地区（旧鮎川収蔵庫跡地の広場）

- ・展示解説員兼調査員（学生）の雇用 アルバイト30人×2日 ※一括計上
- ・マイクロバス借上げ（アルバイトの移動用） 1台×2日
- ・資料輸送（借料）一式（100点×1往復）

【仙台市】※見做し仮説入居者・被災地からの移転者等を対象

会期：平成26年12月（4日間（予定））

※準備等前後2日間

会場：せんだいメディアテーク（仙台市）

②被災文化財の返却（石巻文化センター仮設収蔵庫への運搬）

【石巻市湊】

時期：平成27年2月（予定）

- ・運搬要員（学生）の雇用 アルバイト20人×2日 ※一括計上
- ・マイクロバス借上げ（アルバイトの移動用） 1台×2日
- ・資料輸送（借料）一式（2000点）

③ヒアリングで得られたバックデータの記録化および民具台帳・目録の整備

- ・整理事業員の雇用（院生）アルバイト2名×15日
- ・コピー代（需用費）

※石巻市鮎川収蔵庫の資料を整理する事業。民俗資料の使用地や使用法等、津波で失われたバックデータを復元するため、被災地で陳列し、聞き書き調査とデータ化を行う。聞き書きデータは、最終的に石巻文化センターの資料台帳作成時に活用できるよう整理を行う。

また今年度は大学で一時的保管できる最終年度にあたるため本事業にて被災文化財を返却し、整理台帳・目録、聞き書きデータ集等を被災館に提供する。

（事業対象資料数） 民俗資料5件（約2000点）+考古資料60箱（テンバコ）

事業実施計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
聞き書き・データ化												
被災文化財返却												

事業担当者連絡先 東北学院大学博物館 学芸員 加藤 幸治



イオンモール石巻でのイベント



イオンモール石巻での展示



石巻市鮎川での展示



聞き書きの様子

文化庁被災ミュージアム再興事業

牡鹿半島 思い出広場

OSHIKAHANTOU・OMOIDE HIROBA

民具と古写真から
一人ひとりの風景が
くらしの風が
みえてくる

入場
無料

期間 2/9月-15日
平成27年

初日は午後7時開場

場所 イオンモール石巻店 海の広場 〒986-0866 宮城県石巻市茜平4丁目104番地

主催 東北学院大学博物館 (仙台市青葉区土樋一丁目3-1 TEL.022-264-6920)

2月14・15日はイベント開催!

14・15日常設

・聞き書き(海の広場)

文化財レスキューされた民具の使い方等が不明です。ぜひ、昔のくらしの思い出話を聞かせて下さい。



・思い出シアター

(海の広場、ステージ幕間)

文化財レスキューの作業風景や民具のエピソードについて映像等を交えて紹介します。

展示内容

東北学院大学では、東日本大震災によって被災した牡鹿半島の文化財の保全作業に取り組んできました。今年度末にはその作業を終え、文化財を石巻市教育委員会に返却される予定です。

今回の展示では、今から60年前の牡鹿半島のにぎわいを、古写真20点で紹介いたします。14・15日の両日は、50～100年前に使用された捕鯨・漁業・養殖・農業・養蚕・生活の民具も展示。被災文化財の保全作業も紹介します。かつてのくらしのイメージを思い起こしてもらいながら、復興していく地域がもともと持っていた文化に誇りを取り戻してもらおうきっかけにしたいだけだと思います。

東北学院大学文学部歴史学科 准教授 加藤 幸治

わたしたちの“こころ”を救う文化財レスキュー

東北学院大学 presents 牡鹿半島・海のくらしのミュージアム

緑の広場 (ステージイベント)

11:30~12:30

学 生による文化財レスキュー活動紹介
talking みんなぞくん

学生が大学でのアクティブなまなびの楽しさを伝える特別ステージ。
牡鹿半島の文化財レスキューについて、語り合います。

14:00~14:30

あ つまれ子どもたち！
みんなで“MINGO”ゲーム！

昔の暮らしについて学べる、民具を使ったビンゴゲーム
だよ！これで君も民具マスターだ！景品もあるよ！

2月14日(土)

2月14日(土)

海の広場 (展示)

10:00~11:30

体験！文化財レスキュー！

これまでに取り組んできた文化財を守る作業を紹介しながら、
一部作業を体験していただきます。

くらしの知恵に学ぶ

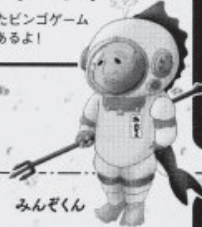
ハンズオン・ミュージアム

ワラでできた道具や昔のくらしや道具、クジラのヒゲや歯など、牡鹿
半島のくらしの民具をさわってもらいながら、大学生が解説します。

13:00~15:00

ワークショップ
「光の箱」を作ろう

文化財関連の企業である乃村工務社によるアートプロジェクト。
「光の箱」を東京と石巻と両方で製作するワークショップです。



10:00~10:30

特 別出張！石巻イオン校
おしか学講座

牡鹿半島の文化や文化財レスキューに関連したひとコマ 15 分の
レクチャーをふたつ行います。

11:30~12:30

な つかしい牡鹿半島の風景を楽しむ
ayu café 鮎カフェ

カフェのようなゆったりとした雰囲気の中で語り合います。かつ
ての鮎川に思いをさせてみませんか？

14:00~14:30

あ つまれ子どもたち！
みんなで“MINGO”ゲーム！

2月15日(日)

2月15日(日)

10:30~11:30

体験！文化財レスキュー！

くらしの知恵に学ぶ

ハンズオン・ミュージアム

13:00~15:00

ワークショップ
「光の箱」を作ろう

店内マップ



交通案内



- 車の場合 三陸自動車道 石巻河南 IC すぐ
- 鉄道の場合 JR 仙石線 蛇田駅より徒歩 20 分
- バスの場合 JR 石巻駅よりバス。
宮城交通ホームページにてご確認ください。

教育 EDUCATION

教育活動

* 博物館実務実習の実施

実務実習として本学3, 4年生を受け入れ、博物館資料の扱いから展示の企画、模擬展示の製作などを行う。

* 大学院生の学芸員教育

大学院生を学芸員としてスタッフに加え、展示

資料の準備や基礎データ作成、展示作業、来館者への解説を通して、学芸員としての実務経験を積ませる。

* 学部生の学芸員教育

博物館実習・考古学実習履修学生が展示作業等にかかわり、実践的な実習の機会を提供する。

収集 COLLECTION

当館では、実物の扱いの経験によって、学生および大学院生の技術的鍛錬を積んでもらうため、東北あるいは仙台にゆかりの深い歴史資料を収集している。

今年度収集の資料は、「伊達綱宗 竹二雀図」、「高尾太夫歌幅」、「仙台藩猪狩家文書」を購入した。



「伊達綱宗 竹二雀図」

実績 RESULT

東北学院大学博物館入館者数一覧 ^{2014年}
()内は前年比 施設見学の中・高校一覧

月	開館日数	有料入館者数	無料入館者数	小計	開館からの延べ人数
4	25	14	175	189	5,907
5	24	27	338	365	6,272
6	25	36	267	303	6,575
7	26	12	139	151	6,726
8	19	10	141	151	6,877
9	23	22	125	147	7,024
10	27	7	292	299	7,323
11	23	8	163	171	7,494
12	22	4	19	23	7,517
1	23	9	23	32	7,549
2	20	4	11	15	7,564
3	21	8	177	185	7,749
合計	278	161	1,870	2,031 (+651)	

	学校名	月日	人数
1	石巻市立桃生中学校2年	4月23日(水)	7名
2	仙台高校2年	4月24日(木)	90名
3	盛岡南高校2年	5月1日(木)	81名
4	福島市立第4中学校2年	5月9日(金)	9名
5	石巻市立飯野川中学校2年	5月22日(木)	5名
6	九里学園高校2年	5月29日(木)	8名
7	福島県立相馬高校1年	5月29日(木)	85名
8	長井市立長井小学校6年	5月29日(木)	6名
9	山形県河北中学校2年	5月30日(金)	31名
10	聖ウルスラ学院高校1年	6月26日(木)	24名
11	岩手県花泉高校1年	6月26日(木)	33名
12	寒河江市立陵南中学校2年	7月8日(火)	32名
13	石巻商業高校2年	7月18日(金)	31名
14	福島県立川俣高校1,2年	8月4日(月)	19名
15	山形県村山市立楯岡中学校3年	9月11日(木)	85名
16	常盤木学園高校2年	10月20日(月)	12名
17	福島県立小高商業高校1年	10月21日(火)	43名
18	岩手県立花巻南高校2年	10月22日(水)	40名
19	築館高校2年	10月22日(水)	13名
20	名取高校1年	10月23日(木)	41名
21	村田高校1年	11月11日(火)	33名
22	山形県鶴岡中央高校1年	11月17日(月)	71名
23	福島県相馬東高校2年	11月19日(水)	36名
24	第一学院高校1,2年	3月3日(火)	20名
25	松島高校1,2年	3月17日(火)	73名
	(+3)	928名 (+248)	

無料開館日入館者数

1	創立記念日	5月15日(水)	1名
2	学部オープンキャンパス	6月28日(土)	109名(-19)
3	大学祭	10月17日(金)~19日(日)	117名
4	ホームカミングデー	10月18日(土)	(+31)
5	東北文化の日	10月25日(土)	5名
6	公開クリスマス	12月19日(金)	2名
7	卒業式	3月24日(火)	3名(-9)

授業等での博物館利用人数

月	授業	人数	研究会	人数	資料整理	人数	利用回数	総人数
4	8	139			5	5	13	144
5	6	102			12	12	18	114
6	14	167			12	12	26	179
7	6	98			14	14	20	112
8	0	0			1	1	1	1
9	6	74					6	74
10	9	116					9	116
11	6	71					6	71
12	6	60					6	60
1	6	74			4	14	10	88
2	0	0			4	12	4	12
3	0	0			9	16	9	16
計	67	901			61	86	128	987

団体見学

- 8月3日(日)
東北中世史研究会 15名
- 8月28日(木)
私立大学連盟学生生活
支援研究会 81名
- 3月30日(月)
学都仙台バスツアー 2015
60名



学校団体の対応の様子

東北学院大学博物館運営委員会の開催

東北学院大学博物館運営委員会は、第一回を平成26年5月15日（木）（5号館第3会議室）、第二回を平成26年11月13日（木）（5号館第3会議室）に開催した。

第一回委員会の議題は、平成26年度事業計画（案）について・平成26年度博物館館園実習（案）について・平成26年度学芸研究員採用（案）について・平成26年度無料開館日（案）について等であった。第二回委員会の議題は、平成27年度事業計画（案）について・平成27年度予算（案）について等であった。

平成26年度博物館運営委員会委員名簿

博物館長	辻 秀人（文学部歴史学科教授）
文学部長	辻 秀人（文学部歴史学科教授）
学務部長	千葉 昭彦（経済学部経済学科教授）
図書館長	中川 清和（教養学部情報科学科教授）
総務部長	日野 哲
歴史学科長	渡辺 昭一（文学部歴史学科教授）
経済学部	仁昌寺正一（経済学部経済学科教授）
工学部	矢口 博之（工学部機械知能工学科教授）
教養学部	津上 誠（教養学部言語文化学科教授）

職員紹介

館長	辻 秀人	文学部教授
学芸員	加藤 幸治	文学部歴史学科准教授
	青村 光夫	研究機関事務課係長
事務職員	尾木恵美子	研究機関事務課課長補佐
学芸研究員	熊谷 明希	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士後期課程
	小山 悠	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	丸山 和央	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	今井 雅之	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	佐々木拓哉	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	横田 竜巳	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程

交通案内



- 地下鉄「五橋駅」下車、
愛宕上杉通を南方向に徒歩5分